ウ　収益と費用
エ　税
(3) 財務諸表の作成
ア　資産・負債・純資産に関する財務諸表
イ　収益・費用に関する財務諸表
(4) 財務諸表分析の基礎
ア　財務諸表分析の意義
イ　財務諸表分析の方法
3　内容の取扱い
(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。
ア　企業会計に関する法規と基準の改正などに随時対応して指導すること。また，実務に即した例題を取り入れた学習活動及び会計処理の方法などについて考察や討論を行う学習活動を通して，企業の財政状態や経営成績などの把握と会計情報の活用ができるようにすること。
イ　基本的な会計用語については，英語表記に慣れ親しむことができるよう留意して指導すること。
(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。
ア　〔指導項目〕の(1)のアについては，企業会計の意義や役割，財務会計と管理会計の役割の違い，会計公準の概要，会計情報を開示することの重要性などについて扱うこと。
イ　〔指導項目〕の(2)のアについては，資産と負債の分類，評価基準，各種の資産と負債の会計処理などについて扱うこと。イについては，株式会社の純資産の会計処理について扱うこと。ウについては，工事契約，外貨建取引，役務収益，役務費用など収益と費用の会計処理について扱うこと。エについては，株式会社における税の会計処理及び税効果会計に関する基礎的な会計処理について扱うこと。
ウ　〔指導項目〕の(3)のアについては，報告式の財務諸表の表示区分と作成方法及び株主資本等に関する財務諸表の作成方法について扱うこと。イについては，報告式の財務諸表の表示区分と作成方法について扱うこと。
エ　〔指導項目〕の(4)のイについては，収益性，成長性及び安全性に関する財務指標を利用した企業の実態を分析する方法について扱うこと。また，連結財務諸表の目的，種類及び有用性についても触れること。

第13　財務会計Ⅱ

1　目　標
商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに，会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。
(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び，国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
2　内　容
1に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。
〔指導項目〕
(1) 財務会計の基本概念と会計基準
ア　財務諸表の作成と表示の考え方
イ　資産負債アプローチと収益費用アプローチ
ウ　会計基準の国際的統合
(2) 会計処理
ア　金融商品
イ　収益と費用
ウ　有形固定資産と無形固定資産
エ　固定負債
オ　純資産
カ　税効果会計
(3) キャッシュ・フローに関する財務諸表
ア　資金繰りの重要性
イ　キャッシュ・フローに関する財務諸表の作成
(4) 企業集団の会計
ア　企業結合の形態
イ　合併後の財務諸表の作成
ウ　連結財務諸表の作成